

子どもも大人も お山で遊ぼう♪

《Asobi基地×お山の教室》 共同企画



6月5日(日)、金光寺山の隠岐しぜんむら周辺にて、「Asobi基地」と「お山の教室」がコラボレーションした山遊びイベントが開催されました。

海士町教育委員会では平成28年度から、「島の子育て魅力化プロジェクト」の一環として幼児の自然体験活動を強化しており、NPO法人隠岐しぜんむらと連携して、未就学児を対象としたお山の教室(※)を実施しています。

普段、お山の教室は平日のみですが、今回は特別に、あまマーレを拠点とする子育てコミュニティ「あま」基地との共同企画として休日に開催されました。

町内在住の15組の親子が参加し、親御さんや子ども達、総勢44名以上が集まりました。段ボール箱やロープなどを使って秘密基地を作るコーナーでは、子ども達だけでなく(子ども達以上に?)お父さん方も工作に熱中!

新緑あふれる森の中で、参加者は思いの遊び方で楽しい時間を過ごしました。子育てをする親御さんどうしが交流する良い機会にもなったようです。

★お山の教室に関するお問い合わせは、隠岐しぜんむらまで。

TEL【08514・2・1313

(※)お山の教室…幼児が自然の中で様々な経験を重ねることを目的とした、海士町版の『森のようちえん』。午前の野外保育を隠岐しぜんむらが、午後の託児を教育委員会運営のコミュニティ施設あまマーレが担当。

関東海士後鳥羽会総会

5月22日(日)、東京・四ツ谷の主婦会館にて、第39回関東海士後鳥羽会総会が開催されました。澤田副町長や亀谷議長、区長会会長の佃区長など海士町からも多数参加し、来賓を含めて約60名が集いました。懇親会では今年も、宇野社中しやくなげ会の皆さんが隠岐民謡などを披露。マリンポートホテル海士の宿泊券や隠岐牛などが当たる恒例の抽選会も行われ、盛り上がりました。

夏の定番・盆踊りでフィナーレとなり、名残惜しく宴は終了。懐かしい唄や同郷人との再会を通して、ふるさととの絆を改めて感じる事ができたようです。《お知らせ》来年の第40回記念大会は、5月21日(日)開催の予定です。



野鳥の調査進む 隠岐は『渡り』の中継地！

自然環境教育やエコツアーリズムに取り組み NPO 法人隠岐しぜんむらでは、野鳥調査に力を入れており、平成 23 年から鳥類標識調査(※)を行っています。

隠岐の鳥類に関してはまだ解明されていないことも多くありますが、専門家による調査が始まったことよって、隠岐が渡り鳥の中継地及び繁殖地として重要であることが分かってきました。渡り鳥には 3 つのタイプがあります。

- ① 冬は南の暖かい国で過ごし、春に日本にやって来て子育てをする『夏鳥』
- ② 秋に日本へやって来て越冬し、春になるとさらに北の大陸などへ移動して子育てをする『冬鳥』
- ③ 越冬も子育ても日本では行わず、春と秋に他の地域へ移動する途中で日本に立ち寄る『旅鳥』

海士町の鳥はほとんどが渡り鳥で、その大部分が、長旅の休憩地として立ち寄る旅鳥です。4 月末〜5 月は、南から北へ渡ってゆく旅鳥たちが隠岐を通るシーズンにあたり、そのタイミングに合わせて今年も調査が行われました。



今年 5 月の野鳥標識調査での様子。(↑)早朝、金光寺山で捕獲されたヒヨドリの足環を確認しているところ。



同じく金光寺山で捕獲されたオオルリ(→)



ミヤマホオジロ(深山頬白)の成鳥。(深谷さん撮影)

調査は現状を把握する上でも大切ですが、毎年行うことに意味があり、継続的にデータを集めて基準を作っておくことで、増減をとらえ、背景にある環境変化に気付いたり、原因を解明したり、将来的に起こりうる現象を予測することも可能となります。

そのような調査で発見された最新の事例は、『隠岐諸島におけるミヤマホオジロの繁殖』です。春になると移動していく『冬鳥』であるはずのミヤマホオジロが、初夏の島前でも観察されたため、調査を行ったところ、繁殖していることが確認されました。日本国内でミ

ヤマホオジロの繁殖が確認されたのは、長崎県対馬、広島県臥竜山に続く 3 例目、しかも 22 年ぶりのビッグニュースということで、本土のテレビ局でも報道されました。この件に関する学術論文が、隠岐しぜんむらの深谷治さん、米子市在住の鳥類標識調査員である市橋直規さんら 5 名によって今年 3 月に提出されています。

深谷さんによると、鳥にとって大事な場所は 3 つ。「冬を越す越冬地。子育てをする繁殖地。そして、移動する時の中継地。その 3 つが確保されていないと鳥は存続できません。隠岐、特に島

前は、ここで繁殖する鳥は少ないものの、多くの旅鳥にとって渡りの中継地として大変重要です。この島の環境がきちんと守られていないと種の絶滅につながるのです」

私たち人間にとっても、鳥にとっても、この島の自然は宝物。季節を告げる鳥たちのさえずりを絶やさないためにも、一人ひとりが環境保全の意識を高めていきたいものです。

なお、隠岐しぜんむらでの野鳥の公開調査は、秋の渡りの時期(9 月末頃)にも開催予定です。興味のある方は参加してみたいかがでしょうか。

(※)鳥類標識調査(バンディング)

- ①カスミ網で鳥を捕獲し、種名・性別・年齢などを特定
- ②一羽一羽が区別できる足環を鳥につけて放す
- ③どこか他の地域で再び捕獲することによって、移動のルートを特定したり寿命などを調べる…という方法。

現在の法律では野鳥の捕獲は禁止されていますが、鳥類標識調査は学術的研究のため国から特別に許可されており、環境省が認定する「鳥類標識調査員(バンダー)」という有資格者だけが鳥を捕獲できます。

現在は全国で約 400 人の鳥類標識調査員が活動しており、隠岐しぜんむらの深谷さんもその一人です。